

# 教育長だより

No. 2

若手の先生へ（3年前の改訂版です。）

2021年4月8日

## 4月は ルールづくりです

### ～ 一年のはじまり：学習規律の確立を！ ～

いよいよ授業が始まります。これから一年間、授業を「整然と」（管理的な意味でなく）進めていくためには『授業のルール』＝学習規律が重要です。例えば、今は先生の話聞くときなのか、あるいは話し合いをするのか、またはノートをとるのかなど……。『読む』『書く』『聞く』の区別はもちろん、発表の仕方なども含めて、中学校も含めて、学習のルールづくりがこの4月の大きな仕事です。

「こんなことまで！」と言われる方もおられますが、**学力のしんどい子や特に課題の重い子などにとっては、こうしたルールがその子の学力を支援していく上で大きな意味を持ちます。**例えば、机の上に教科書やノート、資料集をどう置くかなど、学力のしんどい子にとってはそれらがゴチャゴチャになって、結局どこを見てよいのかわからなくなり、勉強にますますついていけなくなるのです。これは、小学校低・中学年ではよくあることですが、中には中学生でもそういうことが見受けられます。丁寧さが大切です。

「**授業のルールづくりが一年間の子どもの学力を決める**」とも言われます。（少しオーバーですが・・・）ベテランの先生はこうしたことを「普通のこと」、あるいは「あたりまえのこと」と思ってやっておられます。でも、若い先生たちにとってはそうではありません。どうぞ、それを言葉にして若手の先生に伝えていただけたらと思います。以下に少し例示しましたので、学年会などで話し合ってください。

#### [授業の前に大切にすること]

- 1. 机の上に出すものの定位置化：**筆箱、教科書、ノートなどを机のどこに出すのかを決めておく。  
小学校1・2年生などでは、絵に描いて視覚支援をするといいですね。（黒板の隅に画用紙を貼る。）
- 2. 机の中の整理・整頓：**授業に必要なドリルや資料集、辞書などがすぐに出せるように。
- 3. 忘れ物対策：**①教科書→隣の子に見せてもらうよう指示する。②ノート→日ごろ子どもが使っているノート（ます目など）を印刷した紙を準備しておき、忘れた子に渡す。帰宅後、その紙をノートに貼るよう指示する。（後日、ノートを確認する。）③定規やハサミなど→事前に教師が何個か準備しておき、忘れた子に貸し出す。④子どもからの「忘れ物申告」は、ルールをつくっておきましょう。

#### [授業中 大事にすること]

- 1. あいさつ：**授業のめりはりです。「今から授業が始まる」「終わる」という頭の切替えになります。
- 2. 「読む」「書く」「聞く」の区別：**聞く姿勢などにも注意しましょう。特に低学年では「はい！聞く姿勢をしましょう！」などと、繰り返し確認することが大切です。一年を通して言い続けましょう。
- 3. 発表の仕方：**手の上げ方や発言の仕方など、発達段階に応じて考えましょう。できれば学年統一を。
- 4. 話し合いのルール：**①話し方→「〇〇については・・・です。」「私は・・・と思います。理由は・・・」など。②机→班で机を寄せるなど。③司会をたてて進行するなど。④「3分」などとタイマー活用を。
- 5. 授業時間を守る：**「授業は生きもの」ですが、だからといって延長は極力控えましょう。プロの教師として「時間を守る」こと。そして、次時につなぎましょう。**休み時間は、子どもの権利です。**